

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月9日

【四半期会計期間】 第93期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 東洋精糖株式会社

【英訳名】 Toyo Sugar Refining Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 下井田 隆

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋小網町18番20号

【電話番号】 (03) 3668-7871 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 立澤 一郎

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋小網町18番20号

【電話番号】 (03) 3668-7871 (代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 立澤 一郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第92期 第2四半期 連結累計期間	第93期 第2四半期 連結累計期間	第92期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	7,348	7,213	14,469
経常利益 (百万円)	339	401	726
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	240	336	528
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	268	310	540
純資産額 (百万円)	6,983	7,401	7,255
総資産額 (百万円)	10,710	10,635	11,291
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	4.41	6.17	9.70
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	65.2	69.6	64.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	158	108	854
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	37	90	88
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,205	432	1,313
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	1,619	1,742	2,157

回次	第92期 第2四半期 連結会計期間	第93期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.65	2.99

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する傾向にある一方、企業の景況感は横這いで推移しております。また、中国をはじめとした新興国経済の減速や英国の欧州連合(EU)離脱決定などで世界経済も不安定な状況にあります。

当業界におきましては、砂糖の国内消費が8年ぶりに前年比増加する見込みではありますが、今秋の国会における環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)の承認及び同関連法案成立に向けた審議には留意すべき状況にあります。

このような状況下、当社グループは、砂糖事業の収益改善と機能素材事業の拡販に向けて、製販一体となって取組みを進めております。

その結果、売上高は7,213百万円(前年同期比1.8%減)、営業利益は355百万円(前年同期比28.3%増)、経常利益は401百万円(前年同期比18.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は336百万円(前年同期比39.9%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 砂糖事業

加糖調製品の消費減少もあり砂糖販売量は堅調に推移し、売上高は6,742百万円(前年同期比0.7%増)となりました。営業利益は、原料調達コストや製造コストを徹底管理した結果、613百万円(前年同期比10.4%増)となりました。

#### 機能素材事業

化粧品原料は順調に推移したものの飲料・健康食品向けが低調であったため売上高は470百万円(前年同期比15.3%減)となりました。営業利益は、製造コスト低減などに努めたものの23百万円(前年同期比15.2%減)となりました。

## (2)財政状態の分析

### 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、現金及び預金やたな卸資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ655百万円減少し10,635百万円となりました。負債合計は、支払手形及び買掛金や短期借入金(1年以内返済予定の長期借入金)の減少などにより、前連結会計年度末に比べ801百万円減少し3,234百万円となりました。純資産合計は、配当金の支払やその他有価証券評価差額金の減少があるものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ146百万円増加し7,401百万円となりました。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の64.3%から69.6%となりました。

## (3)キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ、414百万円減少し1,742百万円(前連結会計年度末比19.2%減)となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は108百万円(前年同期比31.8%減)となりました。主に仕入債務の減少551百万円及び法人税等の支払63百万円があったものの、税金等調整前四半期純利益401百万円及びたな卸資産の減少181百万円などがあったことによります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は90百万円(前年同期比139.9%増)となりました。主に貸付金の回収による収入500百万円などがあったものの、貸付けによる支出530百万円などがあったことによります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は432百万円(前年同期比64.1%減)となりました。主に長期借入金の返済による支出320百万円及び配当金の支払162百万円などがあったことによります。

## (4)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更又は新たに発生したものはありません。

なお、当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については特に定めておりません。

## (5)研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、39百万円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	54,560,000	54,560,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式。 また、単元株式数は1,000株 であります。
計	54,560,000	54,560,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年9月30日		54,560,000		2,904		

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
丸紅株式会社	東京都中央区日本橋2-7-1	21,408	39.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-11	2,976	5.45
ビービーエイチ ファイデリティ ピューリタン ファイデリティ シリーズ イントリンシツク オポチュニティズ ファンド (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内2-7-1)	1,600	2.93
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1-2-10	1,466	2.68
山三株式会社	東京都江東区南砂1-23-15	1,122	2.05
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2-11-3	895	1.64
橋本公裕	福島県いわき市	672	1.23
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	東京都新宿区西新宿1-26-1	627	1.14
洋糖持株会	東京都中央区日本橋小網町18-20	572	1.04
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1-4	401	0.73
計	-	31,739	58.17

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,976千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	895千株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 28,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 54,479,000	54,479	同上
単元未満株式	普通株式 53,000		同上
発行済株式総数	54,560,000		
総株主の議決権		54,479	

(注) 1. 上記「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2千株(議決権2個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式43株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東洋精糖株式会社	東京都中央区日本橋 小網町18 - 20	28,000		28,000	0.05
計		28,000		28,000	0.05

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第2四半期累計期間において役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年 9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,157	1,742
受取手形及び売掛金	1,254	1,208
商品及び製品	1,018	1,087
仕掛品	122	93
原材料及び貯蔵品	886	665
短期貸付金	997	1,004
その他	214	223
貸倒引当金	12	12
流動資産合計	6,638	6,014
固定資産		
有形固定資産	1,411	1,394
無形固定資産	34	27
投資その他の資産		
投資有価証券	793	765
長期貸付金	2,046	2,068
退職給付に係る資産	30	31
その他	309	310
貸倒引当金	6	6
投資その他の資産合計	3,173	3,169
固定資産合計	4,619	4,592
繰延資産	33	29
資産合計	11,291	10,635

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,175	624
短期借入金	1,840	1,590
未払法人税等	74	72
賞与引当金	65	65
その他	422	439
流動負債合計	3,577	2,792
固定負債		
長期借入金	39	19
役員退職慰労引当金	49	59
退職給付に係る負債	315	325
資産除去債務	1	1
その他	52	35
固定負債合計	458	442
負債合計	4,036	3,234
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,904	2,904
利益剰余金	4,276	4,449
自己株式	3	3
株主資本合計	7,177	7,349
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	107	77
繰延ヘッジ損益	-	0
退職給付に係る調整累計額	30	26
その他の包括利益累計額合計	77	51
純資産合計	7,255	7,401
負債純資産合計	11,291	10,635

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	7,348	7,213
売上原価	5,983	5,827
売上総利益	1,365	1,386
販売費及び一般管理費		
販売費	521	526
一般管理費	566	504
販売費及び一般管理費合計	1,087	1,030
営業利益	277	355
営業外収益		
受取利息	18	17
受取配当金	5	6
持分法による投資利益	20	17
保険解約返戻金	17	-
その他	8	9
営業外収益合計	70	50
営業外費用		
支払利息	6	3
その他	2	1
営業外費用合計	8	5
経常利益	339	401
特別損失		
事業整理損	33	-
特別損失合計	33	-
税金等調整前四半期純利益	306	401
法人税、住民税及び事業税	30	60
法人税等調整額	35	4
法人税等合計	65	65
四半期純利益	240	336
親会社株主に帰属する四半期純利益	240	336

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	240	336
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28	30
繰延ヘッジ損益	0	0
退職給付に係る調整額	0	4
その他の包括利益合計	27	26
四半期包括利益	268	310
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	268	310

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	306	401
減価償却費	46	42
貸倒引当金の増減額（は減少）	1	0
賞与引当金の増減額（は減少）	5	0
事業整理損失引当金の増減額（は減少）	4	-
退職給付に係る資産の増減額（は増加）	11	3
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	39	16
役員退職慰労引当金の増減額（は減少）	61	10
受取利息及び受取配当金	24	23
支払利息	6	3
持分法による投資損益（は益）	20	17
保険解約返戻金	17	-
売上債権の増減額（は増加）	166	45
たな卸資産の増減額（は増加）	66	181
仕入債務の増減額（は減少）	127	551
未払金の増減額（は減少）	29	29
その他	247	14
小計	71	150
利息及び配当金の受取額	24	23
利息の支払額	6	3
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	69	63
営業活動によるキャッシュ・フロー	158	108
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	1	1
有形固定資産の取得による支出	22	56
有形固定資産の売却による収入	-	0
貸付けによる支出	550	530
貸付金の回収による収入	500	500
保険積立金の解約による収入	42	-
その他	5	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	37	90
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	790	50
長期借入金の返済による支出	307	320
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	108	162
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,205	432
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,084	414
現金及び現金同等物の期首残高	2,704	2,157
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,619	1,742

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)  
該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)  
該当事項はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 偶発債務

債務保証

下記の会社の銀行借入について債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
(関係会社)借入保証 太平洋製糖(株)	66百万円	-百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
販売費		
販売手数料	68百万円	67百万円
輸送保管費	266百万円	268百万円
販売促進費	186百万円	190百万円
一般管理費		
従業員給料・賞与	215百万円	194百万円
退職給付費用	21百万円	23百万円
役員退職慰労 引当金繰入額	7百万円	11百万円
減価償却費	22百万円	19百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金及び預金勘定	1,619百万円	1,742百万円
現金及び現金同等物	1,619百万円	1,742百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月12日 取締役会	普通株式	109百万円	2.00円	平成27年3月31日	平成27年6月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月12日 取締役会	普通株式	163百万円	3.00円	平成28年3月31日	平成28年6月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	砂糖事業	機能 素材事業	不動産 賃貸事業 (注)1	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,698	556	94	7,348	-	7,348
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	0	-	0	0	-
計	6,698	556	94	7,349	0	7,348
セグメント利益又は損失( )	555	27	32	549	272	277

(注)1. 不動産賃貸事業は平成27年9月30日付で撤退いたしました。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	砂糖事業	機能 素材事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,742	470	7,213	-	7,213
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	-	0	0	-
計	6,743	470	7,214	0	7,213
セグメント利益	613	23	636	280	355

(注)1. 不動産賃貸事業は平成27年9月30日付で撤退いたしました。

2. セグメント利益の調整額は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	4.41円	6.17円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額	240百万円	336百万円
普通株主に帰属しない金額	該当事項はありません。	該当事項はありません。
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額	240百万円	336百万円
普通株式の期中平均株式数	54,533,960株	54,532,463株

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月9日

東洋精糖株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 塚 原 克 哲

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高 津 知 之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東洋精糖株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東洋精糖株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。